

4 . レコード調整連絡ツールの改善案

現在レコード調整が非常に多いことは前述したが、発生してしまったレコード調整を効率的に行うためにどのようにしたら良いかについて考えてみたい。

業務に電子メールが浸透している現在において、電子メールによるレコード調整の導入も一般的になってきており、電子メールについては、NII よりレコード調整連絡ツールが提供されている。以前の電話と FAX のみによりレコード調整を行っていた初期の段階と異なり、それを支援するためのレコード調整連絡ツールの提供は時代の要請にかなったことであると思われる。現在は、レコード調整の手段として FAX、電話、電子メールいずれかの手段を選択しうる状況である。

しかし、電子メールによるレコード調整の実際について、現在の利用や利用する立場（各図書館）の状況や抱えている問題点について十分明らかになっていない。本グループ演習では、これを明らかにし、より効率的にレコード調整を行うことができるようにレコード調整連絡ツールの改善を提案したいと考えている。以下にレコード調整依頼、レコード調整受付の2つの業務に分けて検討する。

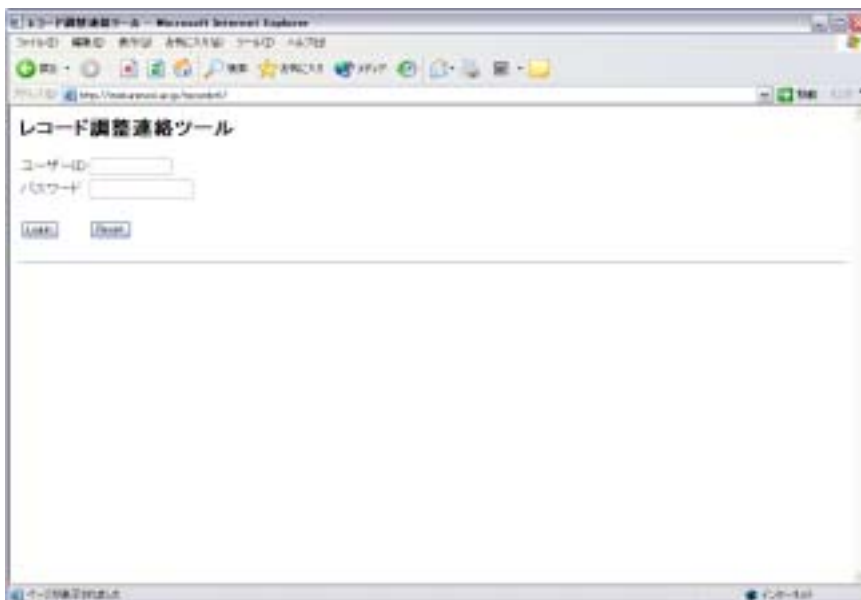
4.1 レコード調整依頼について

4.1.1 レコード調整連絡ツールによるレコード調整の依頼

NII のサポートページ



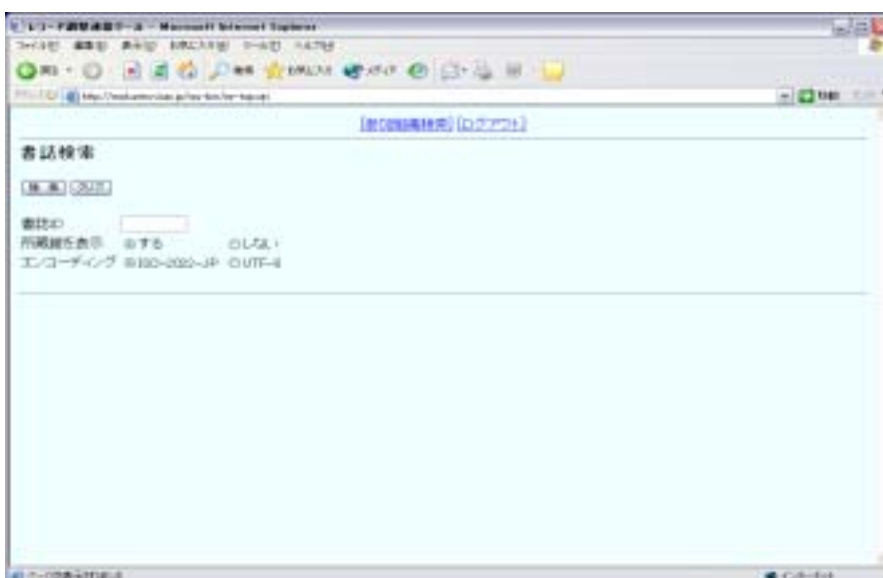
レコード調整連絡ツール 初期画面



ユーザーID とパスワードを入力します。

注意！ 目録登録業務用のユーザーID とパスワードと異なる場合があります。

レコード調整連絡ツール 検索画面

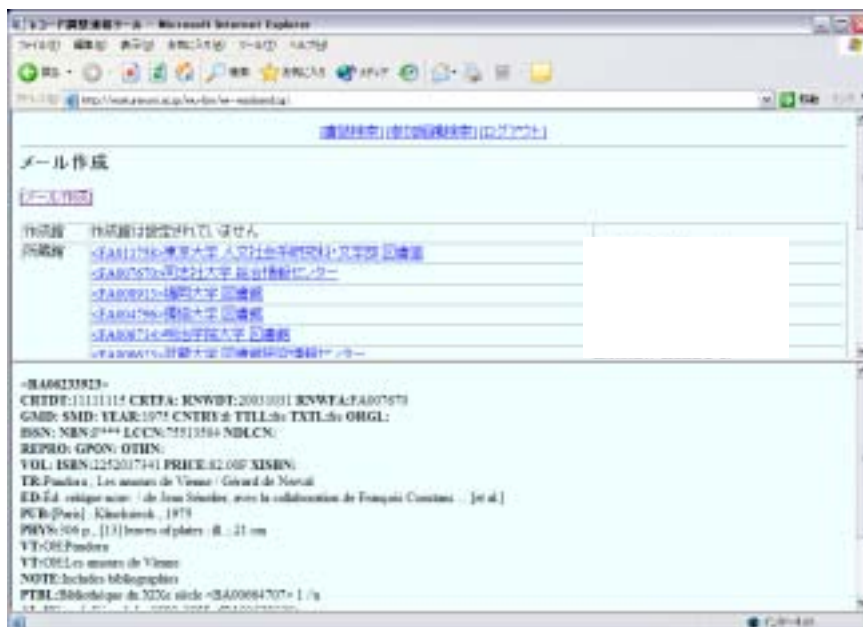


書誌 ID を入力します。

注意！ 多言語の表示の場合は、UTF-8 を選択ください。

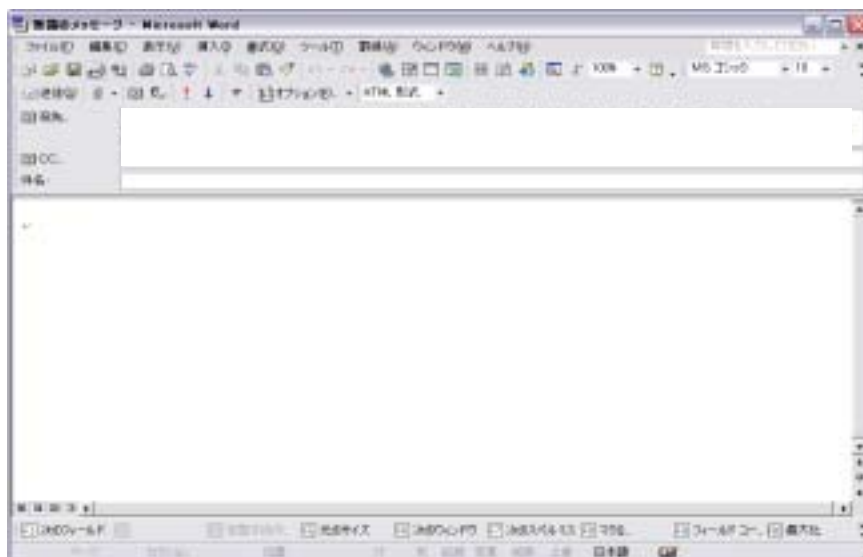
ただし、お使いの電子メールによっては表示ができない場合があります。

レコード調整連絡ツール 詳細画面



メール作成を選びます。

レコード調整連絡ツール 返信画面



予めメールアドレスを登録している所蔵館のみ自動セットされます。

4.1.2 依頼の問題点と改善案

<問題点>

現在の NII で提供しているレコード調整連絡ツールの問題点について、運用上の問題点 システム上の問題点の2つに分けて述べる。

運用上の問題点

- ・すべての参加館がメールアドレスを登録しているわけではない。
- ・件名の書き方が統一されていない。
- ・緊急度を示せない。

システム上の問題点

- ・検索のレスポンスが遅い。
- ・予め NACSIS-CAT 等で該当の書誌番号を調査しておかなければならない。
- ・検索結果の書誌詳細画面が自動でセットされない。(自分でカット&ペーストしている)
- ・情報源を送付できない。

<改善案>

運用上の改善案

- ・メールアドレスが必須でない理由は、電子メールを使える環境にない参加館があるためである。しかし、電子メールを使える環境にあってもメールアドレスを登録しない理由は、チェックの体制の確立が難しいことや業務量増加への懸念があることが予想される。そのため準必須にし、同時に、レコード調整連絡ツールの利用にメリットがあるように改善することが必要である。

現在の登録の状況は、参加館数 1834 中 BOOK にメールアドレスの登録があるのは 758
(2003.11.19 現在)

- ・書誌 ID と発信館の記入を必須にするなど件名の書き方を統一する。自動セットがシステム的に可能。
- ・緊急度がわかるように、件名に急ぎのものは“至急”と記述する。自動セットがシステム的に可能。

例 レコード調整 <BA12345678> 竹橋大 至急

システム上の改善案

- ・ 現システムは、検索の時点で、所蔵館に関するものも含めてそのつど最新の情報を検索するためレスポンスが遅い。ある時点の情報を検索することで、検索のレスポンスを早くすることはシステム的に対応可能。
- ・ 予め NACSIS-CAT で該当の書誌番号を調査しておかなくても該当書誌を検索できる。あるいは、NACSIS-CAT からレコード調整連絡ツールに行くことができる。システム的な対応は可能。
- ・ 検索結果の書誌詳細画面、所蔵情報の自動セットがシステム的に可能。
- ・ 情報源を電子的に送付される。システム的な対応は可能であるが著作権処理が別途必要。著作権の問題がない資料については良いが、目次等の情報そのものより版面権の問題が発生する可能性はある。
- ・ 定型的なレコード調整について雛形を作成する。自動セットがシステム的に可能。場合によっては、雛形をダウンロードし、添付ファイルで送る形で利用することも考えられる。ただ、件名の統一により電子メールの発信者についての信頼性を得ることはできるが、ウイルスに対する注意が必要である。

依頼用

書誌修正 (PTBL ・ 出版事項 ・ PHYS ・ TR ・ ED ・ その他)

重複書誌

ローカルメンテナンス

所蔵の付け替え

現物確認

情報源送付

回答用

修正済み

所在不明

事務連絡用

回答遅れ

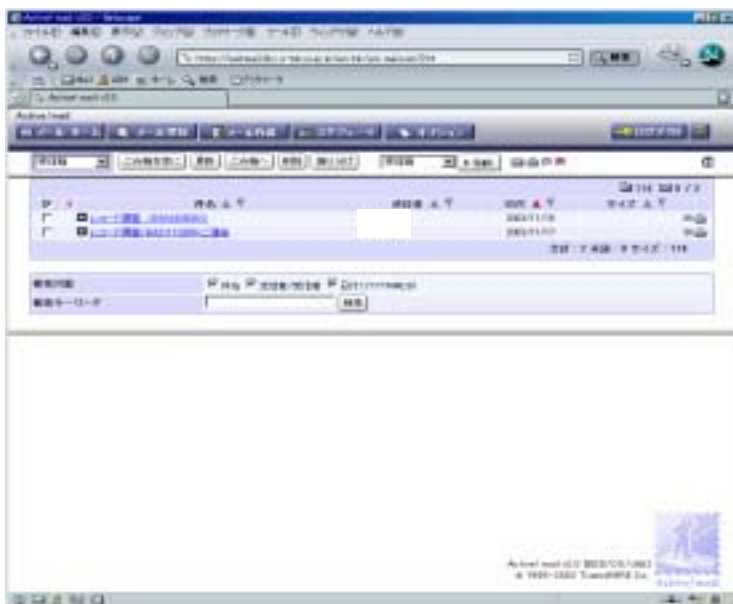
雛形サンプル (付録資料参照)

4.2 レコード調整受付について

4.2.1 レコード調整連絡ツールによるレコード調整の受付

* 利用している電子メールにより機能が異なります。

受信一覧画面



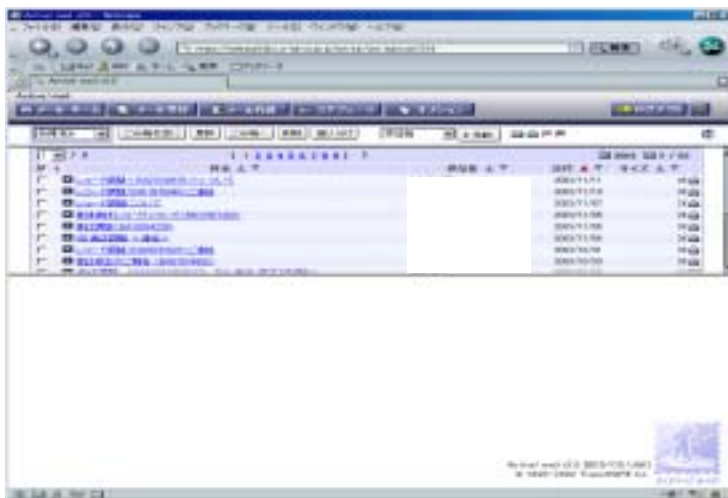
受信詳細画面



返信詳細画面



処理済一覧画面



4.2.2 受付の問題点と改善案

<問題点>

次に、現状のレコード調整連絡ツールによるレコード調整の受付について、運用上の問題点について述べる。

運用上の問題点

- ・通常 NII で BOOK に対するメールアドレス登録が参加組織（FA 番号）ごとに1つしか登録されておらず、複数の図書館（室）で業務が分かれている場合に対応できない。

システム上の問題点

- ・各図書館でそれぞれ個別のメールソフトを使用しているのでシステムのサポートを一律にできない。

<改善案>

運用上の改善案

- ・NII でメールアドレスを複数登録して、担当ごとにそれぞれ受付けるようにする。ただし、システム的には対応可能であるが、運用上に問題が発生する可能性がある。例えば、依頼館にとって所蔵の詳細画面を常に見なければならず、また各図書館の事情も推察できない。受付館でも、複数のメールアドレスに同じメールを受けるとした場合、業務の重複や混乱を招く恐れがある。

システム上の改善案

- ・各メールソフトにも対応できるようなサポートを構築する。

4.3 まとめ

以上、レコード調整連絡ツールの改善案について検討した結果、現在問題となっている事項については、運用上あるいはシステム上それぞれ解決しうるものであることが明らかになった。しかし、最終的に実際のシステムを改善すべきかどうかについては、需要とコストパフォーマンスの問題と言える。

予想される効果としては、当初の目的である“レコード調整業務の効率化”の実現については当然ながら、“潜在的なニーズの発掘”が考えられる。それは、書誌の品質を高めようといった認識はあるものの、自館が作成したあるいは作成のために必要なレコード調整以外を、日常業務の中で行うことが困難であるからである。簡便にレコード調整を行えることが書誌の品質を高めることにつながるのである。

付録資料一覧

・レコード調整 雑形 例

・研修参加者の所属図書館（室）についての「レコード調整に関するアンケート」

このグループ演習では、少しでも現状を知るために、研修参加者に所属図書館（室）の「レコード調整に関するアンケート」をお願いした。その結果12館中何らかの形でレコード調整に電子メールを使用しているところは、8件あるものの、レコード調整の依頼を電子メールで本格的に行っているところは3件。その中でも、この、レコード調整連絡ツールを使って依頼をしたことがある図書館は3件のみであった。

おわりに

私たちのグループ演習は、そもそも、日常業務の中で「レコード調整がなぜこんなに多いのか?」、「レコード調整が多いことはいいかげんに入力しているということなのか?」といった素朴な疑問から始まりました。所属している館で書誌の検索や登録を注意して行うことは当然ですが、それだけでは解決にいたらないことがあります。

グループ演習では、まず、共同分担目録の入力のため参加館それぞれがNIIの基準にしたがって書誌の検索や登録を注意して行うこと。そのために、NIIの基準が明確に、より具体的に示されていなければならないこと。また、既に生じてしまったレコード調整に対して簡便に行えるようにどのようにしたら良いのかについて検討いたしました。その結果、「レコード調整におけるマナー」、「初心者のための「レコード調整手順」」、「コーディングマニュアル(Web版)の改善案」、「レコード調整連絡ツールの改善案」を中心として、いくつかの提案をさせていただきました。今後の改善に少しでも参考になれば幸いです。

私たちもこの演習を通して得たものを、図書館サービスのために「書誌の品質」を保ちながら目録業務の一層の効率化に向けて、生かしていこうと思っております。

最後に、国立情報学研究所国際・研究協力部成果普及課専門研修係をはじめとして、関係者の方に大変お世話になりました。特にコンテンツ課の皆様にはシステム関係のご指導ありがとうございました。また、いっしょに研修に参加された皆様、お忙しいところアンケートやインタビューにお答えいただきましてありがとうございました。